

# Principal Correspondence

## 21年目のリリーベールを迎えて

新しい学友を迎えると、学校も一段と活気付いてきます。  
21年目のリリーベールの一年が始まります。

この学校は、まず「人間性知能」を育むことを最大の理念に掲げています。すなわち「自立」「創造」「指導力」の三校訓であります。1980年代英国初の女性首相サッチャー氏は、「自立しないで生きている甲斐があるの？」と国民に問いました。「ゆりかごから墓場まで」の福祉国家ゆえに活力が停滞し英国病と言われる自立の精神が失われた時期でした。

🌸「自立」は、人のお世話にならないように、人のお世話ができるようにという精神です。

さて、これからの世界に必要な能力は🌸「創造性」であると思います。人類の存亡にかかわる大きな問題が山積する現代社会。日本に限っても、環境問題、技術立国、少子化、高齢化、国際化、地方分権・・・実に様々な課題があります。これらの解決に必要なのは類稀なる発想や、新しい哲学、ビジョンを構築する力です。前例主義の優等生より、時代を切り開く人を。創造性の芽をこの時期にぜひ育みたいと考えます。

そして日本の社会に一番欠けている🌸「指導力」教育は全人格教育そのものとも言えましょう。リーダーになるには「(創造性と関係しますが)目標を掲げる力」と「人望」がなければなりません。また、民主社会ではリーダーは交代しますから、「リーダーシップ」とともに「フォロワーシップ(メンバーとしてチームの目標達成に貢献できる力。リーダーを支える力)」も表裏一体で学ばねばなりません。リーダー教育だけでは真のリーダーにはなれません。これが当校の掲げる「指導力教育」です。

勿論こうした人間力教育の裏づけには豊かな感受性を育てる、芸術教育が必要です。リリーベールが演劇に力を入れて、アートや、音楽、ダンスの専任教師を置いているのはそのためです。もちろん学校ですから確かな基礎学力の養成は欠かせません。また、この時期は基礎体力の育成が同じく重要です。これらが三位一体となって心豊かな少年少女期を提供することが当校の務めと考えています。

さあ、これから**新しいステージ 21年目の歴史**が始まります。

児童期の一日は大人の一カ月に相当するとも言われます。

新しい環境になじむために、できるだけお休みしないようにして参りましょう。

# Principal Correspondence

## 2024年度新しい年をはじめましょう

ご入学・進級おめでとうございます。特に今まで幼児だった皆さん！ようこそリリーの学童保育・アフタースクールへ！皆さんはこれから児童と呼ばれます。新しい環境ですがお兄さん、お姉さんになった自覚をもって元気に来てください。



こどものころの感動・・・「わくわく・じわーっ・どきどき・やったー・不思議だな？」と言うような感動は、子どもたちのやる気を高め、集中力と好奇心、探究心を育みます。それが育つのはちょうどこの学童期が旬でこの時期を逃してはなりません。10歳までは何でも素直に感動し、受け入れる時期でもあります。

また、小さな挫折の体験は、他人の気持ちを知るきっかけとなり、それを乗り越える経験は、思いやりのある、人望のある子へと成長させてくれることも多いのです。

しかし、何でも親が先に手を回して、つまづかないように育て(過保護や過干渉な環境のことです)、つまづいた経験が少ない人は、大きくなってから、一見ナイスガイでさわやかだけど、自己中で、思いやり、人望が無いので、実は周りに愛されていないという人もいます。私の経験では少なからずいます。



挫折を経験したとき、私はアメリカの大女優バーバラ・ストライザンドが人生を振り返って言った言葉を思い出します。

曰く「**小さいときに苦労した人は、その分だけ味わい深い人になれるのよ。**」



今年もいろいろな体験活動が待っている育脳学童ですが、どんな体験も、すべて前向きに捉えて、子どもの成長に役立つものにできる様がんばって参ります。